

回

答

(ハロ)

武藏野市榎の実幼稚園長

櫻葉 勇

一、否

幼稚園が小学校の一部として設置されることは、幼稚園が学校としての系列の中に整備され、理想的の形態のように一応考えられるのであるが、そうすることは決して幼稚園教育の発達を促すものでなく、むしろその反対の結果を招来するのではないかと憂慮される。

成程幼稚園も学校教育法に基いて設置運営されているのであるが、単なる小学校教育の下への延長ではない。幼稚園は学校の系列にありながら、小学校とはちがつた存在の使命がある。即ち幼稚園は小学校に送る健全な苗の育成所で、苗圃として格別の注意を要する。勿論小学校に附設されても教育者の努力によつて、ある程度特別な注意を加え得るであらうが、寧ろ上らかな

困難なことである。

幼稚園は学校であるとともに、半ば家庭である。家庭から学校への一足飛びの急激の変化を幼稚園によつて緩和される。したがつて幼稚園には家庭的環境雰囲気望ましいのであるが、小学校に附設される場合の幼稚園が、果してこの環境雰囲気をもつことが出来るであらうか。殊に僅かな例を除いて現在のように、校舎の一部を園舎としてそのまま、使用しているような場合には尙更である。しかし、それは決して幼稚園を孤立化しようというのでは毛頭ない。又小学校教育の就学年令を低下させるといふなら問題は自ら別である。

二、

学校教育法によつて生れ代つてから未だ日も浅いためであらうが、幼稚園教育の前途には幾多の問題が山積しているように思われるが、今こゝでその二三を挙げて見たい。現在幼稚園の過半数が私立であり、私も亦一私立幼稚園長であるから、その立場からの要望である。

法令上一応幼稚園が認められているけれども、指導面に於ても経営面に於ても未だ生み放しの感なきを得ない。だから設置基準すら未決定の状態であるが、速かに適正な設置基準が設定されることが望ましい。

その際無認可園に対する処置も充分考慮されるべきである。現在では無認可幼稚園はそのまゝに放置されているから、できるだけ認可を受けるよう指導して貰いたいものである。

口、適正配置

全国的に幼稚園数は多いとはいえない。したがつてもつとも増設されることが望まれる。しかし一方では園が多きに過ぎて互に悩んでいる地域もある。だから今後の新設には偏在を避けて適正に配置され、多くの幼児が幼稚園教育を受ける機会を与えらるべきであるとともに、いずれの園もその維持経営に、憂なからしめたいものである。特に今後公立幼稚園設置の場合には既設園の位置を充分考慮されたいものである。

ハ、對保育園問題

幼稚園の適正配置は同時に對保育園問題

を解決しないでは完璧を期し得ない。現に幼稚園と保育園とが、垣根一つで隣合つて好ましくならぬ弊を起しているところが無いでもない。

對保育園問題については、第十二国会の衆院文部委員会に於て若林委員によつて採上げられたことは喜びに堪えないが、若林委員の質問に対する文部省初等中等教育局長の解答によつても問題の解決は今後に残されている。

幼稚園と保育園はそれぞれその使命と限界を異にしている筈であるが、現状は収容される幼児も、教育の内容も殆ど差別的ない状態である。保育園といえども、幼児の教育面を無視してよい道理はないから、両者が幼児の教育の場として一本化されることが切望されるが、それが不可能ならば、両者の立場をもつと明確化して両者各々の使命を達成するよう適切な処置がほしいものである。

二、経済的助成を

教育は結局人であるが、幼稚園特に私立幼稚園では優良な教員を得ることがむづかしく、又せつかくの教員も永續性がないと

いうことが大きな悩みの一つである。

その原因は大部分の教員が女性であるため、結婚その他の家庭事情によることが多いが、他の一つの理由は待遇の低いことを挙げ得るであろう。更にその原因は幼稚園の経営が極めて困難な状態にあるためと考えられる。ところで授業料を無制限に値上げすることが出来ない。否もつと保護者の負担を軽くして多々の幼児を入园させたいものである。

そのためには幼稚園の設立経営に對し適当な経済的援助を考慮して貰いたいものである。尤も既に経済的助成が実施されているが、その額は極めて僅少であり、それも、学校法人以外は恩典に浴しないのである。これが法人外幼稚園にも均霑され、更にもつともつと増額され、ある程度の研究費にも恵まれるようになれば、幼稚園教育は一般の進歩を示すにちがいない。

三、

今日では小学校側で、幼稚園修了児に對し殆ど何等の考慮が払われていないのであるまいか。しかも幼稚園修了児はおませ

であるとか、落ち着きがないとかの批難をよく耳にする。これは幼稚園の教育が正しく行われなかつたことに対する批判として我々は深く反省しなければならぬが、学校側では幼稚園教育を受けた児童として一応の考慮を願うしたい。幼稚園からの指導要録には注意を払つていただきたいが、それが先入主となつて児童を偏つた目で見ないように切望したい。

四、

現在でも運動会学芸会等に幼稚園が小学校に参加することが多いが、これは一層盛んにしたいものである。

幼稚園が義務教育ではないし、幼稚園の教育が特殊なものであるから、小学校の一年の受持が二年の受持となるように、簡単な人事の交流は出来ないが、次の方法で両者の理解を深め関係を密にすることが出来ると思う。

- 1、相互參觀
- 2、協同研究会の開催
- 3、合同展覧会
- 4、幼稚園修了の小学校児童の協同調査

幼児の教育雑誌と小学教育雑誌が、幼稚園と小学校相互の理解を密にするため両者の座談会、研究会等をしばしば採上げてくれていることを切望する。

文京区竹早付属小学校主事

中川 武夫

120057

1、将来幼稚園を小学校の一部として設置することは、我が国教育の現状から考えて適切であると思われる。

幼稚園教育の必要性については今更いまでもないが、我が国の現状においては、それは小学校教育にくらべて著るしく普及していない。これには種々の理由があるであろうが、経済的な理由がその最も根本的な一つと考えられる。此の点から考えて幼稚園を小学校の一部として設置することにすれば、独立的に設置するよりも好都合であり、従つて幼稚園教育を普及して幼児教育を徹底させる上に効果をもたすことができる。

教育は幼児、児童の発達の助成であり、生活の指導であつて、不断に連続的なものでなければならぬ。しかるに我が国の現状においては、幼稚園の教育と小学校のそれとは互に分離して、教育の効果を期待する上に妨げとなつてゐる。幼稚園を小学校の一部とすることによつて、自然に両者の連繫を保つことが容易となり、両者の教育の効果を確実にすることができる。

2、そのためには、小学校の一部に幼稚園に必要な施設、設備をととのえ、小学校と一連の教育計画を立てなければならぬことはいうまでもないが、とりわけ、幼稚園の教員の資質を高め、小学校教員と同程度にする必要がある。又小学校の教員も、幼稚園教育について理解と技術を身につけるようにならなければならない。そして幼稚園、小学校一時に低学年一の区別なく、担任することができるようになることが要求せられる。

120058

一般的にいつて、現在の幼稚園教育は、消極的である。一層普及徹底させる必要が

ある。

1、幼稚園の設置数、園児数も現況においては比較的になく、施設、設備も充分でない。

2、教員の資質も、一般に低いようである。将来においては教員養成制度の充実によつて、大学の課程を履修した教員を多くするとともに、現職教育を積極的に実施することによつて、教員の資質向上をはからなければならない。

3、幼稚園教育の研究においても消極的である。教育学者も教育の実際家も積極的に此の方面の研究を進めることが少なく、他の教育の領域に比して余りにも伝統的無批判的であつたように思われる。理論的にも實際的にも一層積極的な研究が期待される。

(イ) 幼児の研究、特に具体的、科学的に個々の幼児を理解し、適切なる指導を与えることが充分に行われていない。
(ロ) 教育課程の研究、改善においても、積極的な研究が不足している。幼児の研究に基いて、その必要を充分にみたし、教育の効果を完全に期待することの

できる教育課程を履修させるよう工夫し
なければならぬ。

(ハ) 学習指導の方法についても積極
的な研究が乏しい。幼児の心身の発達に
即して、その教育目標を達成する上に最
も効果的な方法を考えなければならぬ
徒らに保護的、世話やきめであることが
幼稚園であるとはいい得ない。

(ニ) 教育の具体的な目標を立て、こ
れを基準として評価し、教育の改善をは
かることは、能率的な教育を進める上に
重要であることは、いうまでもない。こ
れらの点においても十分な研究と実践が
つまれていたとはいい得ない。

(ホ) 幼稚園の教育は小学校の前段階
として、自然にこれに連続する教育であ
るといふよりは、むしろこれと分離した
教育であるかの如き観を呈していた。幼
稚園教育の特殊性に強調点がおかれ過ぎ
て、小学校との一貫性が忘れられていた
ようである。子供の発達に決して中断さ
れてはならないことはいうまでもない。

三つとつと

幼稚園終了児に対しては、幼稚園の教育
に自然につながる小学校教育を計画し、無
理なく、効果的に教育が進められるよう
にしなければならぬ。そのためには、
1、幼稚園の担任教員と連絡を緊密にし
小学校教育開始前に個々の児童について、
できる限り理解を深め、又児童の受けて来
た幼稚園の教育について正しい認識をもた
なければならぬ。

2、幼稚園の指導要録、其の他児童理解
に必要な資料を継承し、これらについて充
分に研究しておく必要がある。

3、幼稚園の教育課程を具体的に調査し
個々の幼稚園修了児の学習した課程を理
解して置くのがよい。

4、小学校の教育課程の構成に際して、
幼稚園のそれとの連絡を充分に考慮する必
要がある。

5、指導の方法においても、著るしい飛
躍のないように注意しなければならぬ。

6、学級編制に際しても、幼稚園終了児
に対して、特別に考慮すべき点があるかど
うかを考えてみる必要がある。

要するに従来のように、小学校に入学し

て始めて教育が開始されるというような考
え方でなく、幼稚園の教育が発展して、自
然に小学校教育となるよう、工夫しなけれ
ばならぬ。

四について

小学校、幼稚園との相互の理解を深める
ためには、

1、小学校に幼稚園を附設したり、併設
したりして、相互に近づく機会を多くする
ようにする。

2、小学校及び幼稚園の教員の資質を同
程度にするとともに、両者の待遇も同等に
することによつて人事交流が可能となるよ
うにする。

3、両者が合同して、研究団体やその他
の組織をつくり、研究会等を活発に行うよ
うにする。

4、現職教育等によつて、互に他を理解
することの必要を認識し、積極的に相互の
理解を深めるよう努力する。
等が要求せられるであらう。

杉並区杉並第五小学校長

武藤光太郎

一 について

1、私は設置を可とするものである。

ここで将来とゆう言葉は、何日頃を予期したか？ 私は戦後の小学校教育がある程度整備された時期を想定しているものと考へる。とすれば、所謂六三制も混迷期を脱して、大体に於いて落付を見せて来た今日に於ては、幼稚園設置は取上げらるべきであると思う。即ち将来とゆう時期が来たものと考ええる。又幼稚園を小学校の一部としてとゆう言葉の内容には、小規模でもよいから、成る可く早く設置されることが望ましいとゆう意図が含まれて居ると判断する。従つて勧告に忠実な当局であるならば、二十七年あたりには全国の小学校に幼稚園を設置する法案を議会に提案するのが当然であると思ふ。

私はこの勧告の有無に拘らず教育本来の使命から、戦前より幼稚園は小学校内に設

置すべきものであるとゆう主張を続けて来た一人である。斯様な見地から新制中学を義務制にする際に於ても、中学を義務制にするより、幼稚園を義務化する方がより先決的な問題であると、その筋にも識者にも訴えて見たが実現されず、今日に至つたのだが、今になつて新制中学を二年制にするとか、中学を義務制にした為に、市町村が財政難に陥つたとか、農漁村の中学校の出席率が悪いとか、教師に人を得ないで済んで居るとか、数々の問題も起らないで済んだらうと残念にも思うが、何れにしても小学校に幼稚園を設けることには双手を挙げて賛成したい。

理由としては

- (1) 「三つ子の魂百までも」とゆう常識が真理を語つて居ること。
- (2) 発育の速度の早い中に基礎を築くことが出来る。
- (3) 健康生活のよい習慣をつけ易い。
- (4) 調和のとれた発育を促進し易い。
- (5) 求知心の旺盛な時期を空費させずに済む。
- (6) 情操教育は夢(想像の世界)の多い

時代が大切である。

(7) 集団意識や、社会性の出鼻に適切な指導が出来る。

(8) 自己意識をありのままに表現する時代であるから、採長補短が容易である

(9) 家庭との連絡が、幼稚園は密接であるから一般家庭の文化啓蒙となり、従つて子供の育成に効果が多い。

(10) 身体的にも、精神的にも、早期に長短を知ることが出来、矯正も容易である。

尚ほ挙げ来れば幾つもあると思うが要は植物でも本肥が大切で、本肥を充分与えておけば後は軽い追肥で充分に伸び肥とるので、人間の生長も之れと同じである。

その大切な期間を放漫に過ぎざすことは国家的に大損失である。

2、そこで当面の要件としては

- (1) 急速に設置促進の運動を、全国的に展開すること。
- (2) 設置の必要性を指導層に知らしむること。
- (3) 全国教職員組合の協力を求めること
- (4) 現職幼稚園関係者が一致団結して、

世論作興の推進力となること。

(5) 現在の幼稚園教育の内容を大衆向に転換すること。

(6) 差当つて幼稚園教諭養成機関の拡大強化をその筋に陳情すること。

(7) 現在幼稚園(公私立)に於いて夏季や冬季の休み、放課後などを托児所の娯楽に解放すること。

(8) 現在の幼稚園教育を一般向にすること。(特殊な家庭の子女収容の傾むきを漸次改める)

二二〇五

よく研究もしていないので批判する段階の資料もないが、幼稚園の必要性を最も切実に感じているものは現在その教育に當つては経営者と教員であると思う。従つて皆さんが先ず立ち上がつて、幼稚園の増設や義務化に努力すべきである。少なくとも幼稚園不振の責は、今迄の経営者や幼稚園に關係した職員や、現職員が負わねばなるまい。更に声を大にして訴えたい点は、幼稚園に入園させたいと思う幼児が入園出来ず小学校に入学する前の貴重な二年間を漫

然と遊び暮すことは父兄にとつても教育の立場からも見のがせない問題である。私は

幼稚園では健康教育と情操教育を主軸として教育設計を樹立し、知能や技術面は協同的な図工や作業や聴視的な映画や紙芝居や放送、幻燈、童話等で充分に取り入れることが出来るし、社会性の育成も同時に達せられるのではないかと思つてゐる。特に都市の母親は知的に走つて、成果を附近に求め、それ引ずられる傾向があるから教員は直接の指導面には、細かく、具体的に指導も、研究も、なさつてゐるが、経営や施設等になると一切園長委せのようであるが、この点は今後の先生として研究努力の余地があると思う。例えば遊びの指導は、運動場の面積や、運動用具や、遊戯に関する玩具の種類等と切り離すことが出来ないから経営者と一体になつて、設備備品等の充実と、能率的な使用方法を研究されたらと考へる。次に地域社会の調査やテストなども科学的に研究されては来たが、之を實際指導の場に応用し活用する点になると未だ

充分でないように思われる。

三について

小学校に幼稚園が併設してあると、幼稚園の先生と小学校の先生が普段に打合せも出来るし、相互に授業も參觀仕合うことも氣易く出来るので受入態勢もスムーズに行なわれ、校長を兼ねている關係から経営方針も施設も万事好都合であるけれど、全然切り離された教育の場では、小学校側では一と通り幼稚園の教育方針や学級の組織や学級内のグループの活動や、指導技術や、時間配当、施設備品の状況から、出来るならば先生の人となりに至るまで知つて、幼稚園で折角努力した指導の成果を無駄のないように用意して受入たい。特に幼児の観察や調査などの貴重な記録は充分に小学校で活用したいと思う。学習でも幼稚園は未分化ではあるが、身体的に、知能的に、情緒的に、学習上の欠陥や長所などの記録を是非引継ぎたい。その他特種な家庭事情や異常児の取扱ひなど、入学前に是非幼稚園の先生から詳細に伺つて置きたい。要是小学校側として幼稚園の教育を十二分に生か

すための受入態勢を整え、幼稚園では成るべく幼稚園の教育実態を知らして貰うような資料を整備し、提供して下さるよう用意されるならば、好ましい受入が出来ると思われる。

四つひん

児童福祉法や児童憲章等の設定によつて国家が幼児や児童の幸福のために一段と力こぶを入れて下さつた際、われわれその任に当る者は子供に対する認識を新たにしたい子供の生活を楽しく、より安定した立場にするために彼等の生活実態を掴んで、より豊かな、より健康な、遊びや、学習指導を切り開いて理解を深め、愛情と熱意を傾倒し、他面一般社会人に子供達の福祉を増大するための理解と協力と啓蒙運動を積極的に行う必要がある。こうした見地から小学校と幼稚園は今までより一層近密な連絡をして一貫した指導精神で行きたいものである。それには相互に次のような事項に努力しなければならない。

1、下半年担任と幼稚園の先生との研究組織を持つこと。

2、双方の研究会に案内仕合うこと。
3、双方の行事に参加し合うこと。
4、同一問題に就いての講演会、研究会を持つこと。
5、双方に通学する子供の父兄会を持つこと。

6、地域社会の実情を協同して調査すること。
7、校外指導を協同で一貫した方案で行うこと。

8、幼稚園からの累加記録を作り上げること。

差当りこうした事柄によつて、お互に接触する機会を持つて相互に理解を深めることが近密への開道になると思うので、私も通学区内の幼稚園の園長さんや先生方へお願いしたと思つてゐる。

品川区聖美幼稚園長

内山 憲尙

一について

「将来幼稚園を小学校の一部とする」こと

に対しては、幼稚園を現在のまゝで、公立小学校の校内に附設するだけのことであるならば、全く無意味なことで六三制さえ完全な域まで達して居らず、校舎の狭小、教室の不足、教諭数が足りない現状に於て反対であります。

義務教育の年齢を一年下げと云うことなら話は別です。この点を明確にしなければこの問題は正しく解決を与えることは出来ないと思ひます。

義務教育の年齢を一年下げるとは理想としては結構と考えられますが、我が国の現状に於て果して實現の可能性があるでしょうか。これの実施に當つてはよほどの研究が必要であると考へます。

二については

現在の幼稚園教育の型を大きく二つに分けて考えられると思う。一つは、なんでもかんでも新しいもの——特にアメリカの模倣——を追つて、それを新時代の正しい保育であると考へているもので、もう一つは、相変らず、昔のまゝの形式による保育をしているものであります。

前者の、何んでもアメリカの通りにやることを以て一番正しいと考えるやり方は、保育には個性を尊重し、幼児を自由に、充分に生活させる点に於てはすぐれているでしょうが「ぬり絵はあちら（アメリカ）でやらないから絶体にいけません」「折紙はあちらでやらないからやつてはいけません」とすべてアメリカの模倣を以て日本の子供に押しつけようとするところに考えなければならぬ点があると思います。

後者はあまりにも今日までの保育になれ切つて墮性で、いつまでもイージーゴーイングなやり方で押し通そうと云うのでありまして、自由遊びと云えば、幼児を園庭にすて、置いて時間が来たら、毎日同じ時刻にベルや鐘をならして一斉に号令のまゝに従わせようとするやり方です。童謡遊戯は保育の中心となつて、先生方は遊戯の講習で仕入れたものを、そのまゝ、幼児に伝授し教諭の思ふ通りに幼児をしばつてしまふやり方でありませう。

以上は兩極端であるかも知れませんが、たしかに、こんな型があることは事実であります。

私は現在の幼稚園教育に二つのものを要望いたします。一つは幼稚園教育目標の正しい把握であり、今一つは幼稚園教育の創造性と幼児の創造力の育成であります。

今日多くの幼稚園は目標を持つて居りませうか。多くの先生方は目標を立てて居りませうか。

アメリカに敗けたからと云つて、アメリカの通りにやらなければならないことはないでしよう。一組二十五名か三十名の幼児に二人の先生がついてゐると、四十名に一人の先生しかついてゐないのとでは根本的な開きがあるのであります。

しかも、日本国民を育成することが究極の目的になつてゐるのでありますから、そこには日本の保育が在らねばならないでしよう。「日本の保育」などと申しますと、なんだか封建的な古くさい、軍国的色彩があるように考えられるかも知れませんが、決してそうではありませぬ。教育基本法にも「国民の育成」が教育の目標であると明言してあります。国民とは、どこの国民でしようか。ロシアの国民を作るのではありませぬ。アメリカの国民を作るのでもありませぬ。即ち日本国民を作ることに外ならないのであります。

この目標が明確に樹立出来たら、その目標に向つて幼児教育の道を進めて行くのであります。

今日まで日本人に欠けていたのは、自分で自分を見出すことでした。模倣の上手な国民でありましたが、創意性を欠いていた国民でありました。

今後の幼稚園教育の在り方は常に創意に満ち活気に満ちたものであることが必要であると共に、幼児たちが創造の力を以て自己を発見し、自己を作り出して行く力を与えてやる教育でなければならぬと思ひます。

三 つについては――

小学校の先生方も最近、幼稚園教育に自分の御理解を持つて来ていた、きました。まだ沢山の先生の中には幼稚園教育を真に理解されていない方もあります。

中には幼稚園から来た児童は、あまり馴れなれしすぎることから、自分より先に集団教育が施されてゐると云ふことに対して

一種の反感を持つ方もあるとのことですが
もつと幼児の教育に理解を持つていただき
たいと考えます。

四に ついては——

幼稚園の園長や先生方が、小学校教育を
理解し、いろいろな事のあるたびに小学校
へ出かけて行つて、校長や諸先生と意思の
交流をして置くこと、私の園では毎年二月
末に、園児の入学する小学校の校長先生や
一年生受持ちの先生方に來園いたゞいて、
保育の実際を見ていたゞき、終つて懇談協
議会を開きます。

幼稚園の修了式に小学校長や先生方の参
加を願うことや、小学校の運動会に幼児を
参加させていたゞいて遊戯や運動をやらせ
て貰うことなどもよいことです。

要は理論ではなく、幼稚園と小学校とが
互に仲よく理解し合い、信頼し合い、助け
合へて行くことより外にはありません。あら
ゆる機会を捉えてこれの実践に役立た、め
る様に努めることです。

台東区清島幼稚園長

松石 治

一

1、幼稚園を小学校の一部として設置す
る事は妥当であると思います。学校教育の
一環として当然幼児期の教育は専門家に托
すべきで、殊に低学年と幼稚園は密接不離
な関連を保たなければならぬ故に小学校
の一部として設置される事は好ましいこと
と思います。

2、幼稚園は従来の小学校の施設では適
当ではありません。幼児期に適した生活環
境を整備し、幼児心身の育成に設立つ施設
を必ず備えなければ完全な教育は望めない
と思います。又教員は幼稚園教育に理解を
持つ明朗快活な人物であると同時に、常に
小学校教育との連繫を考える有能の人であ
りたいと思います。

二

現在の幼稚園教育は戦後新教育思潮の影
響を受け進歩しつゝ、ありますが、幼稚園の

施設は不備な所が多く、戦前に比して誠に
遺憾の点が多いのであります。加うるに園
児の人員超過、財政困難、教諭不足等から
幼稚園教育は實質的に低下せざるを得ない
状況も見られます。又幼稚園と保育所との
使命が一般人に理解されなないために起る種
々の問題等も、当事者の正しい使命観によ
り解決しなければならぬと思います。人
口の増加により幼稚園の増設は目下の急務
であります。費用の点で行き詰る事が多
いのでありますから、幼稚園費の国庫負担
を急速に実現され、学校教育法の主旨に遵
い、正しく明るい教育を実施しなければな
らないと思います。

三

- 1、幼稚園修了児を一組とするか一グル
ープとして取扱つてもらひ度い。
- 2、幼稚園教諭の経歴を持つ教師を一年
生の担任してもらひ度い。
- 3、幼稚園教育を充分研究した上で次の
段階の指導をしてほしい。

四

- 1、幼稚園と小学校の教員が話し合う機会を多く作る。
- 2、幼稚園と小学校各々に行事のある毎に引き合つて共に楽しみ、研究し合う様にする。
- 3、交互に参観して意見を交換する。
- 4、指導要録を持参して担任教師に委しく報告し、今後の指導を懇請する。
- 5、父兄と入学校の職員との懇談会を開く。

中央区城東小学校長

小林 操

「将来幼稚園を小学校の一部として設置」することが、アメリカ教育使節団によつて勧告せられた。まことに日本の現状に即して、就学前幼児教育の普及を考慮して誠に適切な勧告である。幼稚園は独立園舎で経営するがよいか、小学校併設で経営するがよいかについてはいろいろ問題があろうし小学校の一部としての「一部」の意味にも多少はつきりしない点があるが、日本の現状では、幼稚園教育を受けたいと思う幼児

をすべて収容してやれるだけの幼稚園の施設をすることが先決問題である。それには小学校の一部として設置することが、實際であり、近道であると思われる。勿論二部授業や中学校の教室不足の問題もあるがまず一教室でも余剰のある小学校から幼稚園を設置して行けば、過渡的な処置としては最も当を得たものと思う。一方では段々にこれを整備して行けば、やがて学校教育体系中の幼稚園教育が推進せられることになる。それについては国家が幼稚園設置に要する費用のどれだけかを負担し、設置奨励に積極的態度をとることの必要はいうまでもない。

現在の幼稚園には明確にさせなくてはならぬいろいろの問題がある。しかもいろいろの問題はすべて連関をもつてるので、一つだけを取り出して考えるわけにはいかない。「現在の幼稚園教育に対する批判や要望」にしても、これは直ぐに施設や、経費や人的条件や、はては制度の問題にまで発展していくことになる。この問題については限られた紙数では十分考えられないの

で省略する。

「幼稚園保育の修了児を小学校はどんな受け入れ方をしたらよいか」幼稚園教育を希望するもの、ほんの僅かしか収容できない現状と、更には就学前に幼稚園教育を希望する家庭が少い今日においては、小学校に入学する子供も大部分は家庭から直接小学校に入学するのであつて、幼稚園を修了して小学校へ入つて来る子供は全体から考えれば極めて小数にすぎない。こゝに幼稚園修了児を受け入れる小学校側の苦心がある同時に幼稚園側から小学校に対する受け入れ方の要望が生れて来るのである。

この問題は「小学校と幼稚園との相互の理解を一層緊密にする」ことの中に包含されると思う。したがつて問題は「小学校と幼稚園との連絡提携をどうしたらよいか」ということになつて来る。

このことについてはいつの時代にも重要な問題として関心をもたれて来たのであつたが、実際にこの問題と取り組んで研究されることが極めて少なかつた。戦後教育制度の改革と教育全般の新しい出発に伴つて

漸く関心が向けられる気配になつては来たが、実際には殆ど研究が進められていない状態である。

幼稚園と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校というようにそれぞれそのつながりが必ずしもうまく行つていないという事は新しい教育制度の現段階における欠点の一つであり、今後の研究にまつべき重要な問題ではないだろうか。

小学校と幼稚園とのつながりについてよく耳にしたことは、小学校側からは「幼稚園から来た子供は落ちつきがなく、でしやばり屋が多くさわがしくて、手古摺つてしまふ」という声であり、幼稚園側からは「小学校の一年担任の先生は幼稚園の保育を生かして指導してくれないから、入学当初に学校の生活にあいてしまふ」といつたような声であつた。併し今日ではこうした考え方は次第にうすれて来つゝあるように思われて誠に喜ばしい。

併しまだまだ問題は沢山残され、研究を要する部面が多い。

私はまず幼稚園と小学校の一、二年は心身発達段階から考えて一つのグループと

考え、この考えに立却して教育計画を立てられなくてはならぬものと思う。この計画によつて幼稚園なり小学第一、二年なりの指導が行われていけば連絡の問題は自然に解決されるものと思う。たゞ今日では小学校に入学する児童のうち、幼稚園の保育を修了したものが余りにも少いので実際問題とするといろいろの困難が伴うのである。アメリカのある地方のカリキュラムを見ると幼稚園と小学校とは必ず一貫した計画を立てられている。わが国でも小学校の改訂指導要領には各料とも幼稚園のことが考慮せられてゐるが、幼稚園と小学校一、二年とを一つのグループと考えるならば当然そうなければならぬと思う。東京都の幼年教育研究会が組織せられたのも、その点にねらつてのことと、今後の研究を大いに期待している。

基本的な考え方は前述のようであるが、現実の実際問題としては、なかなか簡単に取扱えない事柄が多い。それには幼稚園の先生と小学校一年の担任の先生とがまず親密な連絡を常に取つて行くことがだいじ

である。このことは誰でも分つてゐることであつて、案外実際には行われていないと思う。この点は現制度の現在の状況ではどうしても重要な事であつて、幼稚園の先生は小学校一、二年の様子を實際に観てその取扱ひなり指導なりを理解しなくてはならない。と同時に小学校の一、二年担任の先生には是非幼稚園の保育の實際を觀て低学年の取扱ひなり指導なりの計画をたて実践することがだいじである。

この問題については物的な面からも人的な面からも将来の考究と改善にまつべきものがたくさんあると思うが、取あえずは、小学校低学年担任の先生と幼稚園の先生との共同研究、連絡協議会、交換見学等を時々開催して両者の理解を深め個性を生かした指導が続けられるように運営することが急務であると思う。そうしている間に一方でこの両者に関連する問題を解決するよう努力したいと思う。

杉並区日本大学幼稚園長

小林 伸子

120517

第二回米國教育視察団が残した勸告中將來幼稚園を公立小学校の一部として設置するようにとのことであるが、その勸告の趣旨を詳知しないけれど、私見としては反対の立場に立たざるを得ない。

米國の小学校はいざ知らず、我が日本の公立小学校は、概ね一校に多数の生徒を收容し、その数千名の中に幼児を入れることは、心理的に見ると時に刺戟が強すぎて疲労が甚しく、教育効果に於て寧ろマイナスになると思われる。

よし保育室が独立した室であつても、全体としての刺戟から免れ得ようとは思われない。

實際的に幼稚園は家庭の教育の延長であるから、教師に一層の愛情を必要とする。従つて多数の幼児を收容されたのでは、愛情どころか、教師の疲労から来る不自然な

感化の方が心配になる。故に公立小学校に簡単に幼稚園を附設することは考えものと思われる。

120517

現在の吾が國の幼稚園教育の最大のそして根本的な欠陥は、明確な幼児観を持つていないことではないでしょうか。幼稚園教育者が概して保育技術にのみ捕われ勝ちであることによるかと思ひます。

保育技術という方法論に赴く前に、幼児の本質を把握することに努むべきではないでしょうか。只に幼児の心理を理解するだけでなく、幼児の人格を正しく認識することから出発すべきでありましょう。

フレーベルが幼児を神の子と認識されたように、その人格の価値評価が発点とならなければいけないと思ひます。

幼児観が曖昧である為か、自身の内心に満足出来ないためであろうか、絶えず新教育方法論に捕われている。新教育方法論は數年に一ツ二ツが唱導せられ、やがて又新方法論にもつて代られては、新しい方法が必ずしも価値あるものとは限らない。

斯る不確実な方法を以て貴重な人格の教育に当るといふことは、大いに反省すべきことではないでしょうか。

次に衛生施設、養護施設の不備である。學齡に達するまでの幼児期が最も養護を要する時期であることは申すまでもないことであるが、抵抗力の弱い幼児を、その芽をはぐみ育てると同時に健全な身体を作り上げねばならぬことです。その為には種々の衛生施設が望ましい。尙現在吾が國に於ては幼稚園は再開及び新設の普及期にある。従つてその形態に於ても内容に於ても、充分ならざるものがあるのも止むを得ない。斯う言う時代の事情を考慮に入れて、その内容改善を計り、よりよく多数普及させるよう御指導を切望する。

120517

四月新学期一年の入学生は現在のところではまだ、幼稚園を通じてゆく児童は少數であるために、教師は直接家庭よりの児童を中心として取扱われるので、幼稚園で団体訓練を受け教師の言葉を受け入れる態度の出来ている幼稚園からの児童は積極的

に動き頼しんでゆくから取扱いに、とかくの批判を受けることもあるようであるが、どうか個性本位の教育に基いてよく理解して頂きたい。今年から幼稚園終了児はその指導要録を持つて進学することになっているから、それを活用して幼稚園教育を引つづいて伸ばして頂き度いと思う。

四〇〇七

現在に於てはしばしば両者の連絡会、見学研究会等を相互に開くことが實際的であろうかと思う。附属とか公立附設の幼稚園は小学校との連絡が充分と思われるが、しかざる幼稚園は小学校との連絡があまりにも隔絶しているのではありますまいか。こうした連絡の機会を作るように互に努力すべきだと思ふ。

中野区感応幼稚園長

青柳義智代

アメリカ教育使節団の「幼稚園を小学校の一部として設置する」と云う勧告に対し、小学校側も全面的に賛成されて、その実

現に協力されると聞いている。永く幼稚園教育に携わつて来た者にとつて、さうした小学校側の幼児教育に対する理解と協力に對して、先ず敬意を表するものである。

なぜならば、かつて幼稚園の教育の成果を最も認めなかつたのが、その小学校側であつたからである。幼稚園出身児童は「出しゃばりだ、新入生として学習に興味を持たない」等々。主として悪い面だけを列挙して、全く好意を持つて貰えなかつたものだ。ところが教育傾向の変化とは云いながら、今度幼稚園を小学校の一部として設置することに全面的に賛成し、協力される小学校側の態度の変化に對して、その移り變りの激しさを痛切に感じさせられている。

さて、アメリカ使節団の勧告は、小学校側と共に、文部省に於ても全面的に賛同されているようである。先般来そのため、小学校に幼稚園を設置する計画を立案されて、園庫から助成の裏付けを以つて実行の運びに至つている模様である。即ち、予算が得られるならば直ちに、勧告に従つて小学校の一部としての幼稚園がどしどし設置され

て行くものと考えてよい。

ところで、幼稚園を小学校の一部として直ちに設置して行くことは、適当か、どうか、と云うことであるが、幼児教育の将来を考える理想計画としては、万人先ず異論はないと思う。例えば、小学校の隣接地に園舎も、また運動場も、幼稚園としての専用の施設が備えられて、誰れが見ても小学校とは違つた独立した幼児教育施設としての幼稚園が、各々小学校に一部として設置されるならば、誠に望ましいことである。しかし小学校の教室が一部余つたから、若しくは空けることにして、そのままを幼稚園とする、又、運動場も小学校と共用して、児童と幼児と時間交替制で利用することに、たゞ間に合せに幼稚園を小学校の一部として増設するだけを主眼にする施策は絶対反対である。殊に教育計画には周到な用意があると思う。六三制の実施にはそれを欠いたために、どんなに困難してきたか、今以つて幾多の問題を残していることも解る。幼稚園教育の現状をみて幼稚園の増設計画より先ずなすべきことは、教

員の養成ではなかるうか。免許法に定められたその専門コースをもつ国立大学はどこにあるだろうか。全く考えられていない。幼稚園教員の必要数の大半は各種学校である一年制に委ねている現状である。或は、小学校教員でも、幼稚園教員が出来るからと云うような安易な考え方であるならば、園数ばかり殖えても、実質的には幼稚園の低下となると思う。またおい／＼あとで専門の養成を考えると云うならば、その計画は国の教育計画としては極め杜撰なものとなわなければならぬだろう。

その勧告は国の将来の教育計画として誠に結構。但し、その実現のためには、日本の幼稚園教育の実情に即して、周到な計画に従いその実行に際しては、順序と段階のあることを進言するものである。そして名実共に幼稚園が小学校の一部になり下るようなことのないことを祈っている。

荒川区日暮里小学校長

佐々木良治

一七〇五二

1、可と思いません。

理由

小学校に入学する前の一二年即ち満四五才の幼児は漸く親の傍から離れて近所の幼児達とあそぶ様になるが、之等の幼児は教育的には放置され勝ちである。それは親の方に教育の力がなく、「どう指導してよいか判らない」と言うこともあり、相手になっているひまがない。という親の生活の実状からも来ている。

この様な幼児の時代は身体の発育を十分に考慮し乍ら、緩かな枠の中に幼児を置く様な、教育が必要だと思つので幼稚園教育は、幼児の全部に施されることを必要と思つ。

2、設置の要件

右の様に幼稚園の教育は必要であり、且小学校の学区域が幼稚園の学区域と一致することが望ましいから、小学校の一部として幼稚園を設置することが可いと思つのである。

何故ならば教育はその地域性を生かして

行うことが大切で、他地区の幼稚園で保育を受けた幼児を収容するよりも同地区の然も同校内で保育された幼児を収容する方がよいわけである。

二七〇五二

私は幼稚園教育に対する見解が狭いので片面的な見方であるかも知れないが。

1、幼稚園教育も教育である以上、指導する側に計画がたち、その実践に当つてはその方向にもつて行かなくてはならないものと思うが、実際には個々の幼児の個々の御機嫌とりに労力と時間をとられて、計画はあるかも知れないが、それを実行しかねているかに見える場面をよく見受ける。個性に依つてよく面倒を見てやることは良いことだ。併し全体を何所にもつて行くかも大切な目的であるとすれば、此の二つがよく按配されないと、特定な幼児の御機嫌とりに墮してしまふ恐れなしとしない。要之幼稚園と雖も団体的な生活訓練に早く引入れる努力をすべきであると思つ。つまり団体的訓練、之れを広くいえば一般に躰についてもつと高度の要求をしてよいのではな

いかと思う。

又そうでなくてよいなら幼稚園教育は特定人の特殊教育の様になつて、小学校に屬する国民の教育としては極めて意義の淺いものとなる。而して右のことは、幼児を好ましい環境の中に置いてその個性を氣持よく伸展させることを旨うことを意味するのではないことを附加える。

三つ〇五ト

1、現在我校の段階では新一年に就学する児童の約二〇—三〇%が幼稚園修了児で数ヶ月間彼等は一樣にクラス内のリーダー格であり模範児である。そこで新一年には之等幼稚園修了児を適当に接配して編入することが能率をあげるに都合がよい。

2、私は将来の日本教育に、小学校はその一部として幼稚園を設置した方がよいと考えるので、その様な時には小学校の一年各級共、躰の面で骨を折ることが余程省かれて、意図する課程がよりよく消化出来、事実上義務教育年限延長と同一結果を生むこととなるであらう。偉大なる教育上の大収穫を得る結果となる。

四つ〇五ト

1、幼稚園教諭と小学校一年担任教諭を会員とする研究懇談会を設ける。

但之れは往々にして小学校側に於いて熱意を欠くきらいがあるので、公立に於いてはその過渡的措置として、都又は区の指導

主事又は教育主事を主催者とし、校長園長をも含めた研究懇談の機関とする。

2、アメリカ教育使節団勧告の様に幼稚園を小学校の一部として経営し、教員の学級担任を幼と、小学校下学年とを一本とする。

お茶の水女子大學附属幼稚園試案

幼児指導要録記入の手引

A5判五二頁定價三五円 送料八円

幼児指導要録の記入もいよいよ昭和二十六年頃から始められることになりました。各園それぞれの立場に於て御研究がなされていることと思われまふ。ここにお茶の水女子大學附属幼稚園の試案として「幼児指導要録記入の手引」が出されました。幼児の生活の實際と評価の尺度について客観的な正しい觀察の手引として一つの指針となるものと信ぜられます。

東京都千代田区神田神保町二ノ四

發行所

株式会社

フレールベル館

振替東京 一九六四〇番